

石川町議会 議会報告会実行委員会 宮城県柴田町議会 調査報告

1 目 的

宮城県柴田町議会では、「一般懇談会」「団体懇談会」「柴田高校との懇談会」という特徴ある形で住民等との懇談会を行い、さらにはそこにワークショップの手法を取り入れ、参加者が気軽にかつ多くの意見を出しやすい雰囲気づくりに心掛けて運営している。

こうしたことから、柴田町議会での運営手法等について調査し、今後本町議会でも実施予定である「各種団体との意見交換会」の運営に生かしていくため。

2 調査日時

令和5年12月19日(火) 午後1時15分～午後3時30分

3 調査場所

宮城県柴田町議会（電話 0224-55-2136）

4 調査事項

議会懇談会について

- (1) 事業概要
- (2) 「一般懇談会」「団体懇談会」「柴田高校との懇談会」の具体的進め方
- (3) 進めるにあたっての議員の具体的役割
- (4) 運営上の留意点
- (5) ワークショップやワールドカフェ方式の具体的手法
- (6) 参加した住民、団体、高校生の反応
- (7) 住民などから出された意見等に対する議会としての対応
- (8) 運営にあたっての議会側の反省点

5 参加者

小木芳郎委員長、増子美知夫副委員長、鈴木義延委員、菊池美知男委員

瀬谷寿一委員、乾初美委員 議員 6名

瀬谷利幸議会事務局長 事務局 1名 合計7名

6 柴田町議会

議員：高橋たい子議長、平間奈緒美副議長

事務局：大山薫事務局長、高木信孝次長、今野裕介主幹 合計 5名

7 議会懇談会の概要について

(経 過)

- ・平成19年度から議会報告会を開催。

- ・平成20年度から、議会からの一方的な報告ではなく、住民との意見交換を重視する目的で、名称を「議会懇談会」に変更。
- ・平成22年度から、一般の町民を対象にした「一般懇談会」に加え、町内の団体を対象にした「団体懇談会」を開催。
- ・平成28年度、柴田高校3年生とワールドカフェ方式で懇談会を開催。
- ・令和2年度、コロナ感染拡大防止の観点から、タブレットを使用して、オンラインにより柴田高校生徒会役員と懇談会を開催。
- ・令和3年度、オンラインにより、「一般懇談会」「団体懇談会」「柴田高校生徒会役員との懇談会」を開催。
- ・令和4年度、柴田高校生徒会役員に役場若手職員を加え、対面により懇談会を開催。一般懇談会も対面により開催。

(運営方法及び特徴)

○一般懇談会

- ・全議員持ち回りによる「議会懇談会実行委員会」が中心となり開催。
(1～3年目は議席番号ごとに6人(ベテランと新人が偏らない工夫)、4年目は議会広報常任委が担当。)
- ・毎年「懇談テーマ」を設けて開催し、開催前には、事前に学習する機会として「公開議員研修会」を開催。この研修会は、有識者や行政職員などを講師に招き行い、一般懇談会テーマに基づいた研修内容。町職員、町民、近隣市町議員なども参加。
- ・近年は、ワールドカフェ方式を用いて懇談会を実施している。
- ・参加者が意見を述べやすいよう、車座での席の配置にしている。

○団体懇談会

- ・町内の団体を対象として開催し、議会広報を除く3つの常任委ごとに実施。

○柴田高校との懇談会

- ・懇談会への若年層の参加が少なく、どうすればその層の意見を聴取することでできるのか、長年の懸案事項だった。また、選挙権年齢の引き下げもあり、高校生の政治への関心を高めることが求められた。
- ・全国初のワールドカフェ形式での懇談会を実施した、岩手県久慈市議会の柴田町議会への来訪時に、意見交換を行った。
- ・久慈市議会の懇談会でファシリテーターを務めた青森大学教授に、柴田町でも同様の役をお願いしている。

(運営上の留意点) ※以下のグラドルールを設けている。

- ・問いに意識を集中する。
- ・正解を当てようとしなない。感じたことを話す。
- ・全員が平等に話しを聴く。
- ・否定せず、断定もしない。
- ・沈黙を大切にす。
- ・書き出してつなげる。(付箋紙に書き模造紙に貼る。)

(出された意見等に対する議会の対応)

- ・まずは、実行委員会で以下の3項目に振り分ける。
 - § 優先事項⇒対応が必要かつ実施可能性が高いもの
 - § 担当課に情報提供
 - § ご意見として承る

- ・優先事項⇒対応が必要かつ実施可能性が高いものに振り分けられたもの
 - §全議員を3Gに分け、各Gで議員間討議を行い、①提言 ②要望 ③調査 ④情報提供 に振り分けする。(4年度までは、各常任委に振り分けていた。)
 - 3Gすべてが同じ分類・・・その分類に決定
 - 2Gが同じ分類・・・②要望 ③調査 ④情報提供はそのまま決定。
 - ①提言 は再度全員に諮り、全会一致なら提言に決定。全会一致以外なら要望となる。

(運営上の反省点)

- ・毎年度、懇談会報告書を作成し、その中に次年度実行委員会に対する申し送り事項を設けている。
- ・令和4年度までは、懇談会のテーマに「町政全般について」という項目を設けていたため、一人だけ話し続けてしまう人がいた。ワールドカフェの導入や、懇談テーマの絞り込みをすることで、一人だけ話し続ける人はなくなった。

8 質 疑

Q 1 3つの懇談会の周知方法は？ 若い人を呼び込む方法は？

- A 1 議会ホームページ、議会だよりに掲載して周知を図っている。また、防災関係をテーマにしたときは、自主防災組織に直接声掛けをした。
 テーマを絞り込んだで懇談会とすることが、若い人を含めた参加者を呼び込むポイントと考えている。。

Q 2 懇談会で出された課題等の対応について、参加者や町民にどう伝えているか？

- A 2 議会ホームページや議会だよりに掲載し、周知を図っている。
 議会では町政について要望を出されても答えられないため、今年度から「町政全般」というテーマはやめた。
 まずは、懇談テーマをしっかりと決めること、そして課題の抽出にはワールドカフェは有効と考えている。

Q 3 身近なテーマもあるようだが、懇談テーマの決定方法は？

- A 3 実行委員会で話し合い決定している。

Q 4 議会のInstagramやフェイスブックの更新は？

- A 4 事務局で更新している。

9 感 想

- ・柴田高校生徒や役場若手職員との懇談会を実施しているが、町内に高校が2校ある本町でも取り組めるのではないか。
- ・懇談会運営をする上でのグランドルールを設け、議員間で共有している。これは、とても大切なことだと思った。

・懇談会で出された意見を3項目に振り分け、さらにその3項目について、班分けした全議員で協議し、その結果、全会一致の項目は「提言」、それ以外は「要望」等として決定するなど、非常に丁寧な過程を経て決定している。「議会として十分な議論を経た上で判断した結果」として、参加者、町民、町執行部に示すためにも、大切な過程と感じた。

・ワールドカフェの実践を体験させてもらったが、課題の抽出には有効な方法かもしれないと感じた。

。



